

関西支部シニア会活動報告

行事名	第26回 特徴ある技術を有する企業見学会
開催日時	2026年6月19日(金) 14:00~16:30
場所	新明和工業株式会社 宝塚工場(宝塚市新明和町 1-1)
参加人数	シニア会員 23名
行程	14:00~14:05 ご挨拶 14:05~14:25 産機システム事業部宝塚工場の紹介:総務部総務グループ 松本 勇希 氏 14:25~14:40 航空機事業部の紹介:宝塚分工場長 藤原 智彦 氏 14:50~16:00 線処理機および航空機製造の見学, 航空機のイラストを背景に記念写真 16:00~16:30 質疑応答
内容と感想	1) 新明和工業(株) 宝塚工場の紹介 (総務部 松本 勇希 氏) 新明和工業(株)は1920(大正9)年に川西機械製作所(株)に飛行機部を設置したことから始まり, 宝塚工場は1941(昭和16)年に川西航空機(株)航機部が金属加工工場として操業を開始した。1949(昭和24)年に社名を新明和工業(株)とし, 戦後航空機の製造が禁止されたため, 電線処理機や旅客搭乗橋, 立体駐車設備, 環境関連機器など, 主に産業機械の主力工場として開発・生産を行なってきた。その中で産機システム事業部の中核製品である自動電線処理機を見学していただく。電線処理機は宝塚工場のほか, 上海でも製造している。顧客は日系メーカが多いが, 納入先のほとんどは海外である。 2) 電線処理機のショールーム見学 (線処理システム本部ソリューションビジネス部 山崎 博之 氏) 宝塚工場本館1階には1956(昭和31)年に初めて製造した機械式電線切断機を展示しており, 70年に渡って製造している。電線処理機とは, 自動車から家電, 携帯電話, ノートパソコンなど様々な機器の配線に使用されている電線の両端を高速・高精度に自動で測長・切断, 被覆除去, 端子圧着する機械である。特に自動車用は「防水」の要求があり, 端子を付けた後に防水用のシールを取付ける。その際, シールの「向き」を揃える機構を取り入れるなど, 様々な特徴を有する。最近ではエンジン車以外にHV車やPHEV車, BEV車用などの線種が増え, それらに対応している。ショールームでは実際に電線処理のデモンストラレーションが行われ, その速さに参加者は驚いていた。 3) 民間航空機の製造現場見学 (宝塚分工場長 藤原 智彦 氏) 航空機事業部は民間航空機用部品を甲南工場(神戸市)で製造していたが, 機種を増大や生産能力の拡大に対応するため, 現在は複合材料の加工を甲南工場, 金属部品の加工を播磨工場(兵庫県小野市)および甲南工場で分担製造した後, 宝塚工場内の宝塚分工場にてこれらを組み立てて出荷する形態になった。また, リーン(lean, 「贅肉の取れた」の意味)活動というムダや無理のない生産ラインを目指し改善活動を実践し, かつ品質も向上させることを追求している。今回はボーイング777向け翼胴フェアリング(主翼と胴体結合部の整形覆い)と787向け主翼スパー(前後の桁)の製造ラインを見学した。787主翼スパーは部位により色(表面処理)が異なり, 燃料タンクになる箇所は燃料が漏れない処理が施され, エンジン取付部位には専用の設備を導入し加工を施すなど, 様々な特徴があると説明を受けた。また製品の最終仕上げでは細かいところに気づく視点で女性従業員の方が活躍しているとの説明があった。コロナ禍では同時期に生産機数が激減した時期があったが, ようやく生産可能な最大月産機数に戻りつつある, ただし人員は従来より増やさずに対応できるようにしている。

4) 所感

活発で詳細な質疑応答が行われ、丁寧にご回答いただいた。競合他社との比較やシェア、リードタイム（工機、納期）の短縮方法、品質管理の詳細、アフターサービスの対応など様々な課題に真摯に向き合う姿勢を実感した。「特徴ある技術を有する企業見学会」の趣旨に沿う見学会となり、参加した会員にとって新たな発見があった有意義な半日となった。最後に本見学会および準備に産機システム事業部 総務部の余田様、岡澤様、線処理システム本部の久野様、航空機事業部 宝塚分工場の池田様、小幡様、嶽様に協力いただきまして、感謝いたします。

以上



会議室での様子（谷川会長の挨拶）



集合写真（民間航空機製造工場の前で）